

顔・心・体

通巻 50号 平成 30年度
公益社団法人顔と心と体研究会
会報誌

【理事長 内田嘉壽子（かづきれいこ）より】

『メンタルメイクセラピスト®』資格認証制度の普及のために

本年2月28日に内閣総理大臣から公益目的事業として認定されたメンタルメイクセラピスト®資格認証事業に関して、現在、様々な活動を行っています。

9月30日には、公益認定後初めての試験である制度発足前認定試験を行い、5名の1級者を認定しました。

10月13日には、メンタルメイクセラピスト®資格認証事業をテーマにしてシンポジウムを行い、医師や経済学者など様々な立場からメンタルメイクセラピーの意義について語っていただき、制度の周知を図りました。約120名の方々が参加され「是非試験を受けたい」という意思を表明された方も多く、また発行予定のテキストブックについての受注ありました。

メイク実技のためのテキストブックについては、年初には発行すべく、写真撮影・執筆・編集等の作業を鋭意進めています。学科テキストも、出版社が決定し、来年中旬には発行したいと考えています。

来年春には、3級及び4級の試験を実施することを計画しています。テキストだけでなく特別講習等のアイデアを練りながら、準備を進めています。

これらの活動と並行して、全国各地の優良病院事業体を訪問し、主としてその経営陣に対してメンタルメイクセラピーの意義を説明し、病院事業としての取り組み、看護師等の職員研修への編入等を進めるよう依頼しています。また、教育機関にもコンタクトし、資格取得に向けた講座の開設等について話し合っています。

メンタルメイクセラピスト®資格認証事業は、私が長年暖めてきた事業です。外観に悩みをもつ方一人ひとりに寄り添い、その社会復帰・社会参加に向けて力になりたいという思いで続けてきました。資格認証事業によって、私と同じようなメイク技術・医療知識・コミュニケーション能力を持った方を、試験という客観的な基準に基づいて認定し、一人でも多くの資格者を生み出し、一人でも多くの外観に悩みを抱える方々に手を差し伸べたいと考えています。私自身、人を助けようとする中で自分が助けられるという経験を数多くしてきました。一人でも多くの方がこの資格試験に挑戦し、人を元気にしようとする中で自分も元気になるという、前向きで明るい人生を切り開いていただきたいと考えています。来年以降行われる資格試験に是非挑戦してください。



公益社団法人顔と心と体研究会
理事長 内田 嘉壽子（かづきれいこ）

* Contents *

表紙 理事長・かづきれいこ挨拶

P.2 ~3 メンタルメイクセラピスト®制度発足前認定試験についての報告

P.4~7 第13回シンポジウム開催報告

P.7 メンタルメイクセラピスト®検定公式テキストについて

P.8 メイクボランティア募集要項

メンタルメイクセラピスト®制度発足前認定試験報告

平成 30 年 9 月 30 日、西新宿において、メンタルメイクセラピスト®制度発足前認定試験を実施しました。

(1) 制度発足前認定試験とは？

本年 2 月 28 日に内閣府の承認を受けた「メンタルメイクセラピスト®資格認証制度」を運営するためには、制度に基づく試験を行うための試験官や試験問題の出題者の役割を担う上級（1 級又は 2 級）の有資格者が必要となります。しかし、制度発足時にはそのような資格者は存在しません。つまり、鶏がいないと卵は生まれず、卵がないと鶏が生まれえないという状態です。そこで、これまで実際にメンタルメイクセラピーに関わり、外観に障がいや悩みをもつ方々のメイクやケアの経験を積んできた人達の中から、特別の試験（資格認証制度の運営開始後に行われる試験と類似する内容の試験）を実施し、それによって上級の有資格者を選出することとしました。このような方法は、医師の世界では、専門医制度を発足させるときにしばしば行われており、それに倣ったものです。

(2) 受験資格

上記の考え方から、この制度発足前認定試験を受験できる人は、「外観に関して問題のある」患者に対してメイクを行った実務経験が 1 年以上あり、VAS・WHO QOL26 のデータを付けた症例報告書（メイクの相手方から聞き取った内容、提供したメイクのテクニック・ポイントなどを記述し、メイク前後の写真を添付したもの）を 20 例以上提出することのできる人に限定しました。また、受験者には、実技試験のモデルを同伴すること、そのモデルは同伴者ではない受験者のメイクを受けるのに同意していることを条件としました。

(3) 試験内容

この試験の内容は次の 3 つの試験の評価から成り立っており、それぞれの配点は以下のとおりです。

試験項目	配点	割合
VAS・WHO QOL26 を含む 症例報告書の評価	134	25%
実技試験	352	65%
論文試験	54	10%

症例報告書の評価は、VAS・WHO QOL26 の一定期間後の回収率や統計的に有意な変化が表れたかを評価し、また聞き取った情報が適切であったか、提供したメイクが適切であったかなどを提出された写真等で評価することで行いました。



(3) 試験内容（つづき）

実技試験は、メイクに関する 25 項目、コミュニケーション・メンタルケアに関する 8 項目について、項目毎に 4 段階評価を行いました。評価者は、かづきれいこを含むメイクの専門家 2 名、医師 1 名、臨床心理士 1 名の計 4 名で、それぞれが採点した点数を累積して、その合計点で評価しました。

論文試験では、①「外観に関して問題のある」患者からヒアリングを行う場合の必要項目と各項目のヒアリングの目的、又は②先天的な外観障がいと後天的な外観障がいのそれぞれの場合に患者に対する対応をどのように変えるべきかの 2 問から 1 問を選択して回答することとしました。

(4) 応募者及び受験者

この試験には、5 名の方が応募し、5 名全員が受験しました。

(5) 試験結果

この試験の結果、受験者 5 名全員がそれぞれの合計得点で満点の 80% 以上を達成し、1 級の資格者として認定されました。

試験結果（平均点）は以下のとおりです。

	症例報告	実技試験	論文試験	合計
平均点	107	288	45	440
満点	134	352	54	540
達成率	79.9%	81.8%	83.3%	81.5%

(6) 合格者

1 級資格者として認定されたのは以下の方々です。合格された皆様の今後の活躍を期待しております。



小田切俊子様



尾田由紀子様



笠原弘子様



西田佐奈江(西奈まるか)様



箕浦裕子様

公益社団法人 顔と心と体研究会 第13回シンポジウム

日本初！内閣総理大臣認定 公益社団法人による
メンタルメイクセラピスト®資格認証制度スタート！
～メイクセラピーの未来を見据えた 新しいステージの“スタートライン”～

10月13日（土）東京・エッサム神田（2号館・3階会議室）にて、公益社団法人 顔と心と体研究会第13回シンポジウムを開催しました。

今回は、今年2月に内閣総理大臣により公益認定を得た「メンタルメイクセラピスト®資格認証事業」をテーマとし、当法人理事長の内田嘉壽子（かづきれいこ）の他、ノンフィクション作家の梯（かけはし）久美子先生、がん研有明病院 婦人科副部長の宇津木久仁子先生、新潟大学医学部形成外科学講座教授の松田健先生、経済学博士でキャノングローバル戦略研究所研究主幹の松山幸弘先生といった立場の違うそれぞれの専門家の視点から、メンタルメイクセラピーの社会的・医療的な意義について講演いただき、また多角的に議論する場となりました。

当日は、約120名の方にご来場いただき、パネルディスカッションでは多くの参加者の方から質問も頂戴し、大変熱気に溢れたシンポジウムとなりました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。



左から、理事長・内田嘉壽子（かづきれいこ）、松山幸弘先生、松田健先生、梯久美子先生、宇津木久仁子先生、堤信子さん（司会）

【講演（要約）】

●かづきれいこ（公益社団法人 顔と心と体研究会 理事長）

「メンタルメイクセラピーとは何か？」

1992年から高齢者施設・障がい者施設や学校・受刑施設等でメイクボランティア活動を行ってきた。2011年には東日本大震災の被災地を訪問した。2001年から公開講座・シンポジウムを開催し、調査研究活動を遂行してきた。このような活動をバックに、2000年からのNPOとして活動が2014年の公益法人の認定に結実し、検定制度に関しても、2018年2月、メンタルメイクセラピスト®資格認証制度が公益目的事業として認定された。

メンタルメイクセラピスト®の資格のメリットは、QOL向上のためのメイクの知識・技術が習得できること、コミュニケーション能力が向上すること、社会貢献の機会を得られることの3つである。メンタルメイクセラピスト®には、卓越したメイク技術・基礎的な医療に関する知識・メンタルケアを行い得る知識と能力が求められる。意義深い資格であるので、あらゆる人々が資格取得に挑戦することを望んでいる。



【講演（要約）】 つづき

●梯久美子先生「メンタルメイクセラピーの社会的な意義」

2001年からノンフィクション作家としてかづきさんに密着取材してきた。かづきさんのメイクに2つの意義があることを感じている。ひとつは、「人を美しくする化粧」というより「人を社会に向かって踏み出させる化粧」であることである。化粧を「人が社会で生きていくために必要な技術」として位置づけたと言える。もうひとつは、「外観の悩みは支援されるべきものである」ことを明らかにしたことである。「命が助かれれば外観なんて」というのではなく、「命も外観も」と位置づけることで、医療とメイクを繋げる可能性を開いた。



かづきさんのメイク現場に立ち会って経験したのは、辛い思いをしている人に目を配ること、メイクによって外観障がいのある本人だけでなく、その母親などの周囲の人の悩みも解消できること、コミュニケーションにセラピー効果があること、隠すだけでなくその人の魅力を引き出すメイクをすることなどである。何度も目を見張るような思いをさせられることがあった。

この度のメンタルメイクセラピスト[®]資格認証制度によって、高い技術のメイクサービスを安心して受けることができるようになると考えている。メイクによっていつでも外観の悩みを解消することができるという安心感によって、外観障がいを受入れることができるようになる。自分が満足できる外観が得られることで、人は「健康」（＝「満足して生きられる状態」）になれる。そのような外観は主観的なもので、これまで医療にはなじみにくかったが、「健康」になれるのであれば、医療はそれを実現しなければならず、そこにはメイクが医療に貢献する余地がある。

現代では、若い人を含めて、多くの人々が外観に悩みをもっている。職業としてのメンタルメイクセラピスト[®]は、メイク技術によって外観に悩みをもつ人々に適切に対応することができる者として、社会に貢献する意義ある役割を担うことができると思う。

●宇津木久仁子先生「がん治療中の化粧の役割」



医師として毎日がん患者と接触していると、女性にとってのメイクの大切さに気付かされる。女性のがんの罹患者数は、2017年単年度で推定483,100人で、累積すると人口の半分はがんに罹ると言っても過言ではない。がん患者の最も多い悩みは「不安」で、それに続くのが「後遺症・副作用」に対する悩みである。中でも、脱毛やむくみ等、外観にかかわる悩みが多い。

1998年から、「帽子クラブ」を始めて、メイクも含めたがん患者の外観のケアを行ってきた。がん患者に対するメイクの意義は、精神的な落ち込み、外観の変化、がんの進行による体の変化等に対応できることである。特に、貧血・黄疸による顔色の変化、眉・睫毛の脱毛、唇の変化等のがん治療に伴う外観の変化に有効である。

入院中、周術期には化粧はできないが、それ以外の時期においては、眉・リップ等のメイクをすることは問題ない。むしろメイクは、社会との接点を取戻し、病気の中に引きこもらずに、がんを患う前の日常生活に戻る機会として、がん患者に対して前向きな効果があるものと考えられる。

公益社団法人 顔と心と体研究会 第13回シンポジウム

【講演（要約）】 つづき

●松田健先生「形成・再建外科医からみた顔の「かたち」とその治療」



形成外科とは、「見た目」「かたち」をよくする診療科であるが、「かたち」と「機能」は決して相反するものではない。

医療には3つの段階があり、第一は「生命維持の医学」、第二は「機能維持の医学」、第三は「QOL 維持の医学」である。

形成外科とは、主に手術という手段によって、「かたち」を回復し、見た目だけでなく機能をも改善することによって患者のQOL を上げることを目指す外科学である。

形成外科の対象とする疾患は、外傷後の醜状瘢痕、あざ、口唇口蓋裂、小耳症などの先天奇形、皮膚がんや乳がん切除後の皮膚欠損・乳房欠損など、眼瞼下垂や顔面神経麻痺、刺青やリ

ストカット痕など、多岐にわたるが、手術によって回復しきれないところにメイクセラピーの適応があると考ええる。形成外科治療による「かたち」や「機能」の改善に加え、メイクセラピーでさらに高いレベルを目指すことができ、また、手術の適応がない、よい治療法がないというような場合でもメイクセラピーという選択肢を提供できると考えている。手術で主に「形」を改善し、メイクによって主に「色」を改善するということもできるので、両者が相俟って、患者の心を変えていくことができると思う。

●松山幸弘先生「病院経営から見たメイクセラピーの価値」

初めてかづきさんのメイクセラピーに触れたとき、このようなサービスを必要とする患者の数は膨大であり、そのマーケットは広大だろうという可能性を感じた。かづきさんのメイクセラピーの目指すものは、患者の生活の質の向上であり、患者の社会復帰支援である。このようなメイクセラピーは、病院に対して次の3つの利益を与える。(1) 患者の満足度を向上させること、(2) 付加的ケアサービスとして保険診療以外の追加収入が期待できること、(3) 看護師等病院職員の専門能力のアップに繋がり得ることである。



かづきさんの提唱する「化粧医学」を新たな社会科学に確立するには、次のようなことが必要だと考えている。(1) かづきさんと同レベルの施術者を数多くつくりだすこと、(2) 「化粧医学」の実践に協力する病院のネットワークを構築すること、(3) ブランド大学の医学部・看護学部に「化粧医学」の講座を開設すること、(4) インターネット講座を開設すること、(5) 民間医療保険の対象とすること、(6) 海外における「化粧医学」の実情調査を行うことである。現在、これらに向けた活動を着実に実施している。

日本の医療事情に関して言うと、今後、単一の施設での経営は困難になり、健診施設・病院・介護施設等の異なる機能の諸施設がネットワークを形成するような経営が不可欠になる。これら諸施設のそれぞれにおいてメイクセラピーが必要とされており、その意味で大きなニーズが存在しているのである。

【パネルディスカッション】(要約)

第2部のパネルディスカッションで議論された主なトピックは、以下のとおりです。

- 更年期障害から生じるメンタル面の落ち込みや外観の問題について、メイクセラピーは一定の効果がある。
- 入院中の患者のメイクは、周術期を除き、やってはいけないものではない。
- 形成外科で改善しきれないとき、メイクセラピーは解決の選択肢になり得る。
- 看護師等の国家資格がなくても、病院等でメンタルメイクセラピーを提供することは可能である。
- 他人と話してその気持ちを理解するためには、言葉だけでなく、表情・動作等の非言語表現に注意を払うべきこと、自分が話すのではなく、黙って聞き役に回ることが重要である。



参加者の感想 (アンケートより抜粋)

- ・これまでのかつぎ先生の活動や資格への思いを聞く事ができ、資格への興味が更にわきました。
- ・梯先生のジャーナリストの現場での貴重なお話、大変興味深く拝聴させていただきました。
- ・宇津木先生の「メイクは社会との接点であり、第一歩」というお話は大いに納得しました。
- ・松田先生の手術により、かたち、見た目に焦点を当て、患者さんの心をも治す姿に感銘を受けました。
- ・資格認証制度の今後の展望がわかり、説得力がありました。松山先生の行動力に感謝です。
- ・先生方のお人柄や本音が垣間見られて、楽しく聞かせていただきました。



メンタルメイクセラピスト®検定公式テキスト (実技編)発売決定!

「メンタルメイクセラピスト®検定」の実技編テキストの発売が決定いたしました。メンタルメイクセラピスト®になるための基礎理論や基本のメイクテクニック、メイクを使ったコミュニケーションや、化粧品の基礎知識など、ご自身のメイクや化粧品について正しい知識を身につけ、適切に選択できる目を養うことができる内容になっています。

- B5版・128頁予定
- 価格(予定): 3,000円~4,000円+税
- 出版: 株式会社ワニ・プラス
- 発売: 株式会社ワニブックス
- 著者: 公益社団法人 顔と心と体研究会
- 発売日(予定): 2019年1月中旬

(※2018年12月19日を予定しておりましたが、2019年1月中旬予定で作成中です)



お問合せ・ご注文(ご予約)は、公益社団法人 顔と心と体研究会まで
★発売日が決定しましたら、ホームページからも予約を受け付けます★

メイクボランティア 募集要項

最新の募集情報や、他エリアでの開催有無はHPをご覧ください。事務局へお問い合わせ下さい。
入居・・・高齢者入居型施設、通所・・・高齢者通所型施設、その他・・・障がい者施設・視覚障がい者センター等

1/26 (土) 14:30～	入居	緑の郷(神奈川)	小田急線「新百合ヶ丘」もしくは東急田園都市線「あざみ野」よりバス
1/27 (日) 14:00～	入居	アリア馬事公苑(東京)	東急田園都市線「用賀駅」より徒歩
12/11 (火) 14:00～	入居	あおぞら(大阪)	地下鉄谷町線「八尾南駅」より送迎
1/16 (水) 13:15～	その他	にこにこハウス医療福祉センター(兵庫)	神戸バス「病院前」(しあわせの村)下車
1/21 (月) 14:00～	入居	リハビリホームグランダ甲子園武番館(兵庫)	阪神本線「久寿川駅」より徒歩
2/3 (日) 14:00～	その他	稲スポーツセンター(大阪)	地下鉄御堂筋線「千里中央駅」よりバス
12/19 (水) 13:00～	入居	暖流(高知)	JR土讃線「多ノ郷駅」より徒歩
1/15 (火) 13:30～	その他	名古屋盲人情報文化センター(愛知)	地下鉄名港線「港区役所駅」より徒歩

上記の時間は、メイク開始のお時間です。集合は記載時間の約1時間前になります。

※寒い時期は、インフルエンザの流行等でメイクボランティアが中止になる場合もございますので、どうぞご了承下さい。
また、ボランティアに参加される皆様も、体調不良のまま参加されると施設の方に「命に関わる」ご迷惑がかかりますので、体調管理には十分に気をつけて下さい。

■ 申込～参加の流れ

<参加条件>当法人の会員であること、および、当会主催のメイクボランティア講習会を修了していること

<申込方法>ホームページ、またはメール(info@kaokokorokarada.org)、電話、FAXにて、事務局までお申込下さい

→申込を受付けましたら、メールにて事務局よりご連絡いたします※

※<重要>

事務局からのメールが受信可能となるよう受信設定にご協力をお願いします。

定員になりましたら申込を締切の場合がありますのでご了承下さい。

メイクボランティアへのお申込みやお問い合わせをメールにてお送りいただき、事務局より1週間以上返信がない場合には一度事務局へお電話(03-3350-1035)をお願いいたします。

ボランティアの開催日が迫っている場合には、該当日の3日前までに必ずお電話いただきますようお願い申し上げます。

<当日案内>訪問日約1週間前までに、メールにて事務局より「集合時間・引率リーダー名・緊急連絡先」などをご連絡いたしますので、確認後、必ず返信をお願いします。

■ 申込後に参加をキャンセルする場合

理由をそえて、前営業日の15時までに、事務局までお電話下さい。

訪問日が日曜日・祝日・月曜日にあたる場合は特にお気をつけ下さい。(例:訪問日が月曜祝日の場合 → 前週金曜日の15時まで)

■ お問い合わせ

1. 上記の通り、訪問には参加条件がございます。該当されない第三者のお誘いはご遠慮下さい。
2. 人数が少なくなると訪問先へご迷惑をおかけしますので、キャンセルの場合はお早めのご連絡をお願いします。
3. ご連絡先(住所、電話番号、メールアドレス等)に変更がありましたら、速やかに事務局へお知らせ下さい。

公益社団法人 顔と心と体研究会 事務局

Tel:03-3350-1035(月～金 9:30～18:00 土日祝休み)

Fax:03-3350-0176(24時間受付) E-mail:info@kaokokorokarada.org

募集日程は随時更新中です。

メイクボランティアの最新情報は公式ホームページをご確認下さい。[顔と心と体 メイクボランティア](#)

検索

(トップページ → メイクボランティア → 訪問予定)